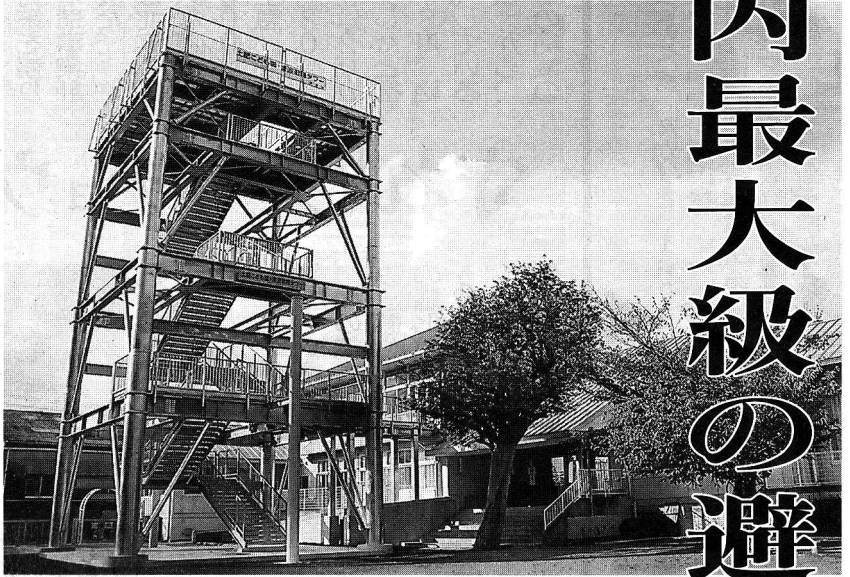


# 国内最大級の避難タワー

# 大津波に備え



伊豆市の「市立土肥こども園」の敷地に建てられた国内最大級の津波避難タワー

伊豆市は、巨大地震の大津波に備えるため、駿河湾の沿岸部に位置する「市立土肥こども園」の敷地内に、高さ16・5メートルの国内最大級の津波避難タワーを建設した。園児や職員だけでなく近隣住民の避難も想定。屋上部分には約70平方メートルの広さがあり、約150人を収容できるという。

## 伊豆市が「土肥こども園」に建設 園児や住民ら150人収容

同市によると、タワーは鉄骨造りで、柱の空洞部分にコンクリートを入れ、倒れにくい構造にした。タワーを上る階段の踊り場などの柵は、転落を防ぐため幅を狭くしてある。屋上部分も、柵の上に網を重ねて張るなど安全面に配慮した。

また津波の漂流物による衝撃を和らげるため、高さ約8メートルのくいを海側と反対側の2カ所に設置した。総事業費は約600万円。

先月末に発表された南海トラフの巨大地震の想定では、伊豆市には最大約11メートルの津波が来るとされている。土肥こども園は海岸から約400メートルの地点にあり、地震発生後、数分で津波が襲来すると想定される。

同園は幼稚園と保育所の機能を一体化した認定こども園。これまでの訓練では、園児らが近くの中学校まで走って逃げたが、途中に車道や急な坂道があり、1・5・6歳の子どもたちを安全に避難させるのは難しいと指摘されていた。

同園はタワーの完成を受け、週に1度、親子一緒にタワーに上る訓練をし、避難までの時間を少しでも短縮する工夫をしている。

袴田政子園長は「避難にかかる時間が短くなり、園内にいる時は安心して過ごせるようになった。ただ、子どもたちは海が怖いものとは感じておらず、園外に出た時に自分の身を守る方法を教えることも大事」と話す。